

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 近接場テラヘルツ励起プローブ顕微鏡による1細胞・1分子分光イメージング解析とその応用
2. 研究代表者： 芹田 和則（大阪大学 経営企画オフィス 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、光・テラヘルツ（THz）変換で生成する微小 THz 光源を利用して、これまで実現が難しかった1細胞・1分子観察が可能な THz プローブ顕微鏡を開発し、分光イメージングにより、生命機能メカニズムに関する知見取得とその応用に挑戦している。フェーズ1では、THz プローブ顕微鏡の開発において光源および受光部の研究開発において優れた成果をあげ、論文発表も多く、積極的に研究活動をおこなっていることは評価できる。フェーズ2では、フェーズ1の成果をバイオ・メディカルなど具体的な分野へ応用することを検討しており挑戦的な姿勢が伺える。THz 生体データベースの構築を目指した医工連携に挑戦し、社会応用に取り組むなど、今後の成果に期待する。

以上